



(題字 吉岡名誉顧問)

親の会だより

第70号平成23年11月

発行

東大阪市手をつなぐ親の会

(年 3回)

## 京都地裁成年被後見人選挙権訴訟

### 第2回公判口頭弁論を傍聴

会長 坂本 ヒロ子

11月1日、14時から京都地方裁判所で行なわれた成年被後見人選挙権訴訟第2回公判口頭弁論を傍聴してきました。

東京、さいたまに続く3例目の成年被後見人選挙権訴訟(4例目は札幌)で第1回目は8月25日に行なわれました。

原告Tさんが成年後見人の竹下弁護士、原告代理人(弁護団)7名の弁護士と共に国を相手に「禁治産の制度を利用する前は、投票に行っていたのに、禁治産を使った後は投票に行けていません。テレビや新聞でニュースを見て政治に興味を持っています。投票するなら障害者のために頑張ってくれる若い人を選びたい。だから選挙権を返して欲しい」と訴えているもので、第2回目この日は45名で傍聴席は満席(第1回目は30名程)でした。口頭弁論後の弁護団の報告では、もっと多くの人に傍聴していただき、関心の深さを表してほしいと呼びかけられていました。

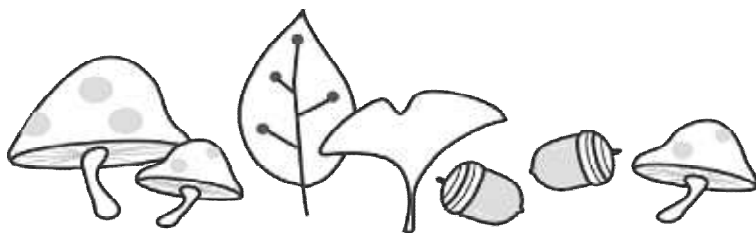
第3回目は12月27日10時30分から開廷されます。

現在4ヶ所で展開されている訴訟のゆくえを注意して見ていきたいと思えます。

今年の全日本手をつなぐ育成会全国大会で「選挙権を奪っている公職選挙法改正を求める署名活動100万人目標の署名を達成しましょう」と緊急アピールされたそうです。

選挙できる能力があるから選挙権を奪わないでほしい、能力がないからいらないのでなく、基本的な人権の問題、権利としての問題として捉えないといけないと思えます。

大阪手をつなぐ育成会では、再度署名用紙を配布するとのことです。締め切りは11月末までですので、まだの方はよろしく願いいたします。



## 「全日本手をつなぐ育成会全国大会」に参加して

東大阪福祉作業所 原田 二三恵

60周年を迎える記念大会は「東日本大震災の被災地復興を支援しよう」一育成会の絆を深め、悲しみを越えて共に生きよう、支え合おう—をスローガンに開催されました。

大会の1日目は、親の会震災復興支援シンポジウムと親と本人の合同分科会（初めての取り組み）の2つに分かれて開かれました。（私はシンポジウムに参加）

シンポジウムは 3部に構成されていました。

第1部は、『痛みを共有出来たら』と言う願いで、写真や映像を交えながらの被災地からの被災当時の報告でした。

第2部は、『復興に向けて育成会としての具体的な支援を考える』というテーマのもと被災地3県のシンポジストの方の報告。

岩手県は相談支援専門員の方から、【被災当時は、道路がなく、電話も使えず誰がどこにいるのかも分からず何も出来ない状況の中、全国の方々からの支援物資が届いたおかげで 一時、危機的な状況から抜け出せた。ガソリンの確保も可能になり、4月に「障害者相談支援センター」が設置され、各避難所にいる障害のある人たちの安否確認・ニーズ調査を始める。】

宮城県は法人の理事長さんから、【大きな余震が続く中、大津波警報が出たことを知り、利用者の命を守ることを最優先して市街地内陸部に脱出した10分後に9mの大津波がきた。恐怖と不安の中、利用者と保護者の方に安心してもらうため 全壊した施設のための土地・建物の購入、両親を亡くされた利用者5人の24時間体制の支援等の活動を再開】

福島県は親の会の方から、【相馬市では長い揺れが続き、家屋が左右に揺さぶられ、瓦やガラス戸が飛び散る・地鳴り・山鳴り・湧き水・波打つ道路・飛び上がる車等この世の終わりを予感するような思い。津波は予想できたが こんな巨大なものとなろうとは誰も思わなかった。このような状況の中 災害時の備えとして 津波は繰り返し襲来する事を再認識し避難訓練を生かす、家族・隣人の初期の適切な対応、後世に真実の継承を】等の報告がありました。

発表された方々は、全国の皆様からの 温かく力強い支援に 大きな勇気と元気をいただき、事業再開に向けて進むことが出来るようになったと感謝されていました。

また 全日本育成会災害対策本部の支援活動についての報告 【被災地3県とは比較的早く連絡が取れたものの 市町村育成会との連絡が取れず、被災地の現状把握に困難をきたし、連絡や情報収集のためにも直接訪ね歩くなどの活動を通して安否確認やニーズの把握を進めてきた。それは時間と人がじっくりと寄り添う心構えが必要なこと。

育成会の全国規模の「義援金」は 7450万円（8月末）。このうち岩手・宮城・福島の3県に第1次支援として各700万円、第2次支援として各840万円、加えて周辺被災地の支援で計5460万円を被災地の育成会に配分。「災害対策活動資金」は約1500万円（8月末）。約600万円を人的支援に活用。

また 人材派遣事業として 5月より「災害対策本部宮城県支援室」を設置。職員1名派遣し、11団体の災害対策連絡協議会としての活動を行ってきた。各地の育成会

からも人材の派遣の協力をいただいた。今後はその時々ニーズに適合した柔軟な支援体制を検討し、全国の育成会と連携した更なる支援活動を続けていきたい。】がありました。

3部は、『災害の経験をふまえ、障害者・家族の安全安心の仕組みを考える』というテーマで、宝塚市の育成会の方【阪神淡路大震災の時、宝塚市育成会として出来たことなどの話。災害時互いに傷つけ合うことなく互いに助け合える雰囲気作りが重要だという思い】が話されました。

宮城県の育成会の方【被災当時はローラー作戦で状況把握・ニーズのつなぎ、6ヶ月ころからはつながりによるケア、これからは共に生きることの活動<育成会の底力を一継続的な支援のあり方・顔の見えるネットワーク作り・互助共助の支援>、そして つらい苦い体験を風化させないため 「支援日誌」を被災地支援活動記録のまとめに。】の話がありました。

2日目の全体会は、皇太子殿下のご臨席のもと開かれました。

岩手県本人代表の方の力強いことばと被災地3県から 被災の状況と復興に向けての心意気が伝わる報告がありました。大津波の被害だけでなく、原発事故による放射能汚染の影響、その風評被害もおさまらないことから 住民生活が軌道にのるまでの道のりは遅々として進まず、多難を極めていると報告された福島県から104人の参加者があり、これからも笑顔を失わず、優しさを失わない活動を みんなで力を合わせ、頑張っていきたいと話され、大きな拍手がありました。改めて、私たちに出来る支援はなんだろうかと問い直した報告でした。

来年は四国の高知県での再会を期して閉会しました。

『一人の小さな手』のキーボード演奏で始まった大会。「一人の小さな手 何も出来ないけど それでも みんなの手と手をあわせれば 何かできる 何かできる」と歌詞の思いがあふれたシンポジウムにという主催者の願いのこもった始まりでした。

『一人の小さな手』の演奏、そして 会場のみなさんで手をつなぎ歌った『見上げてごらん 夜の星を』。映し出されたふるさとの映像を見ながらの『ふるさと』の歌。被災地での過酷な状況、その中で復興に向け歩んでこられた方々に思いをはせながら 胸がいっぱいになる場面がいくつもありました。

報告のひとつひとつは重い内容のものでしたが、報告された方の決してひるまない熱い思いがあふれていました。

全体会の最後は、今井絵里子のトーク&ミニライブです。耳に障害のある子どもを持つ親として、「この子を産んでよかった」と語られた今井絵里子さん。一緒に歌おうとの誘いで本人さんたちも壇上へ。手拍子と手話を交えて歌った4000人の大合唱。舞台と会場が一体となって盛り上がったひとときでした。

歌は心をつなぐし、そこに集う人たちの心をつなぐ力を持っていることを改めて感じた、例年とは違った意義ある大会になった2日間でした。



## 講演

テーマ『障害のある兄とのかかわりの中で』 講師：吉川 かおり(明星大学教授)

吉川先生ご自身にも障害のあるお兄さんがおられ、そのお兄さんが小学生の頃と言えば40年前。福祉サービスも社会資源もなく、家族で育ててゆくのは当たり前時代の時代でした。先生のご両親もず〜と育ててこられました。やっと30代でサービスを利用し始めた。親は、障害のない子(兄弟姉妹)を何でもできる、放っておいても出来る子、スーパーチャイルドだと思ひそう願っている。子どももその期待に答えようとする。先生自身も良い子のレールからはずれられなかったそうです。

詳しい事例を話されるたびに会場から「私もあった」(そうやねえ)等々。うなずく方、涙される方自分の子育てを思い出されたようでした。

障がいがあってもなくてもひとりの子ども、どの子も世界一大切に思っていると言う。「20歳以上の子どもでも親子関係のやり直しは今からでも出来ます」の言葉に救われた思いの方々も多かったと思います。

まだまだお話しを聞きたい思ひでした。気持ちを切りかえる講演でした。

「9月26日 第二東福 多目的室にて 報告書より抜粋」

## 学 齢 期 部 会

コアクラブの夏のイベントに参加させていただきました。

8月1日の1回目は参加者全員が可愛いポストカードに簡単なプロフィールを書いて司会の方が読み上げて下さり楽しく和やかな自己紹介の場から始まりました。初めての場所でしたが、DVDを見ながら楽しい体操、椅子取りゲームなど、親子一緒に身体を動かして遊びました。

第2回目は、焼きそばとフルーツポンチ作り。まずはみんなで材料を買い出しに、息子は機嫌が悪く留守番しましたが、焼きそば作りがはじまって徐々に焼きそばが出来上がって来ると、興味が出て来て味付けに参加する事ができました。

みんなで美味しい焼きそばを食べてフルーツポンチやおやつを食べながら賑やかな時間を過ごす事が出来ました。終始笑いの絶えない楽しい時間でした。参加した子供達が退屈しないように事前の準備やお心配り大変だったと思います。

楽しい時間をありがとうございました。

古林 洋子 (八尾支援学校 高等部)

## 土 曜 レ ク

10月22日(土) 希来里にて料理教室(チヂミづくり+小うどん)

六万寺の平山さんに講師にきていただきチヂミづくりを教えていただきました。

初めにチヂミ粉の作り方、混ぜる材料の切り方焼き方をていねいに教えていただきました。小うどんも作りました。

保護者の質問にも、平山さんは優しく答えていただき教えてくれました。保護者利用者、ヘルパーと一緒に楽しくお手伝いもしてくれました。

出来上がったチヂミと小うどんをみんな話しながら楽しくいただきました。とても、出来上がりが上手でおいしくいただきました。おかわりする人もいました。

参加者が22名と少ない為、もう少し参加人数が増えてくれば良いなと思います。

お忙しいとは存じますが、皆さんも一度参加してみたいかでしょうか？

スタッフ一同、皆さんの参加を心よりお待ちしております。

竹中 眞由美 (第二東福)